終りに日本をむる程その深きに隔り全く

正比例して精神を餓急しむ

變らしな水と石さの心もて

◈友に與ふ

磐崎村

素

朴

のではない屈辱を忍ぶのは 妄りに恐るのは意気が旺な

喜

樂

萬代までも契結ばん

を要せぬ徳川の末世には

るものである事は敢て怒々

耽つタ物質慾は極むれば極

嚴正

批

判

兼編 發 行 人 刷 磐城自治新報社 一點縣石城郡遇本町 崎 義一 祉に合祠す。

**毅行日一日十五日(毎月二回)** 

廣告料五號十二字語一行金五紙代 一部金十錢送料共

露戰爭の後に民心は倨徹の

て地ならしを始めたりとい生である

下枯葉埋れたる圓形の凹地が聞える住み馴れた泉又は あり是往古の境の井跡なり 熊野神社の側の太古堅樹の聞き、高き濱邊泣き叫ぶ聲 ふ現今酒井關根源七の宅後|寂しい山の彼方に浪の音を 白揚の並木の谷間から嘆き

3 ر) کم (郷土誌より) つゝ神々は去つて行く花の湯本驛ョリ一里

とげがあるからといつてば

暗い影で泣て居る

つづく

少しも撓緩んだ、凡ての階級は享襲であることだ。

徳川三百年の

今日最も吾人の相互に弔ふ

樂生するは自然の數である

貧禁生じ、 氣を生じた、

信條なき所に淫

理想なき所に

氣が付かねばならぬ。 らの花を捨てゝはならぬば らの花の美は何處迄も見に 行くと共に美しき花を守る にはとげも必要である事に はいはぬ らう、怒りつばいのを意氣 天動地的の大事業を演出す るのが男子らしい光景であ 衝天の意氣の屈辱の間に蓄 氣慨がないのではない寧ろ とはいはぬ盲滅法を氣慨と 積し機到れば敢然さして震

玉の緒の絶えなばたへね

丈夫の

◇述懐

とげの。徳を見つけるのはと げの美花である

釀造元

楠

IE

Annual An

形

銘清御代

番

M

旹

H

屋

長瀬徳太郎

MJ

書記

温泉旅館

神的更生の慾求は人生眞諦 心期せずして變を求め、

たてし心の末は變らし 我々は日常の生活に於ても つまらぬもの、平凡の中に

傅說

來

さして缺点に堪えぬ所であ。國民的煩悶が主動旗であつ。養老年中境に孝子あり老母。ることを忘れてはならぬ 酒を嗜む然れとも家貧に て不如意常に之を悲しむ も大なる深い徳と快樂の在

小

野

勇

次

郎

客間增築

親切勉强

伊

東

满

陸

館

藥

明治維新の大業の完成は此

皇の出現によつて王政復古

たそうして美明たる肌治天

大正時代も正に國民的煩悶む盃にすれば菊香紛々たりらざるを恐れよ 水湧出して香酒に似たり即されざ常に正道を踏み努力 一日宅後に井を掘りしに清方あり誤解あり中傷あり 一番闘せよ人に認められざる を憂ふ事勿れ己の努力の足 人世種々破亂多し敵あり味 鎌の湯鏡泉 仕出せる 平町新田町 若

0 本

繁

次

郎

見 湯

小

大

澗

館

昭

和

館

本

東洋瓦工業販賣

日本セメント製

松の 忠 徸

常磐線四ッ倉

昔

定

備

熊藏

間

源區。本 町 植 田

町

好

間村竪坑雜貨店

勇

屋

孫四

佐

野

つ多く史家の見逃して居る|ゐなかつた、舊型の政治家四寸長さ六寸許爾來境を改|賢人は唯一の目標を持つて

原因ではあるが、而も尚一が、これが未だ與へられて赤銹舊形を辨すべからず幅目である

治初代の如く民族の歸趨をらん 此井を堀りし鍬今以賢人は唯一の信仰を持つて

依て之を汲み取り母にすい

原因がある、夫れはこの時な依然明治時代の大籏を僅めて菊田郡酒井の庄と名つ|居る其目標といふのは人牛

かに色を代へて國民にこの

集れと叫んでわた。日

宮八幡と奉祝すい

若宮八幡|自分より善き者が考へられ

倉 之

て大きな煩悶に逢着してゐ|下に

長駒橋辰之助

|せしが明治四十四年藏主神|力し其為には荆言をも開拓 は大字酒井字堀の内に鎭座る間は夫れに達する樣に努 安心して買へる

消防組頭相田田

MJ

田度鍬なればとて此鍬を以るのが人間の義務である人 |大同二年出藏寺建立の際目|に一層高い美しいものにな して行かねばならない、常

立國自治會 創道助教 波 Œ

大内 美 租田

MJ

髪飾亂したる女神は叢の小|自動車人力車ノ便 烏礦泉組合 惟田町藝妓屋 M 電話一〇七番

井忠 電七〇番 助役金

村長野木亀乙間 內都村役場 Ħ

H 殿四

局

電話一〇一番 內 內 E 河公司 鄉 鄉

源炭坑 番

電源五

吾々は吾々の質嚴を榮譽と一三下デア

ヒレニ出デラ

色レニ

シテ自然

即

磐城也少二十版

賣

會

知リテピレ

治 城 自 報 新 = 第 破壊せられたる人間の真實 誰か悔悟の情に打たれざる 認しなくてはならぬそして が國家の尊嚴を働くること胞よ! 心靈を毒することを思へば 賤視觀念が崇高なる人間の を識らば誰か自責の念に騙念ふ國民より ものがあらう、 **死ない最大なる罪惡である** 感せずにはゐられない らざるものがあらう。 としても認容することの出 吾々はこの國民の責務を痛 る道義觀念は全くそれを見|モ勞働爭議モスベテハ立所|必タルモノガアル何アル矛|爬虫ノタメニアリ水ハ魚貝|ナキ恨怨ナキ調和整手ノ社あつた即ち全國民の純止な|ナラバ共産主義モ社會主義|地ノ生命ノ貧嚴ヲ犯シテ平|ニアリ、草木ノ繁生ハ鳥獸|コトニョリテ社會常ニ不平 はその心然性を無條件に承 しても社會としても亦國家 信頼すべき國民よ!國史を 眞なる反省も殆んと皆無で|ノ組織躰容ガ合理化サレタ|証モンガ爲メニハ冷然酷然|アリ土壤ハ草木繁生ノタメ る道義觀念は全くそれを見|モ勞働爭議モスベテハ立所|必タルモノガアル何アル矛|爬虫ノタメニアリ水ハ魚貝 陸下の赤子よ! 國民には眞劍なる精神運動 間が人間を冒瀆することを捧げてこれを絶滅し を根絶しぞれに光りあら 家には確固たる國策なく り强烈なる自責に慚愧す 民の努力は足りなかつた一フ言葉ガ流行スル、日々産 るに顧へば過去に於ける」近頃瀕リニ何々合理化トイ 所 て傳統的に光あらしめた 社會的因襲|おゝ人間の温かきを希ふ同|ルベキ自然律へノ屈服ト必|デアル。又飜ツテ遠ク つ一存共祭もそれは吾々の熟と きた。况んや戦慄慚愧すべ一立証シ得ザル間人間ハ猿ョ 使命の前に微笑むことが出得マイ 然るとき吾々はその責務とリアルコトラ背定セザルラデアロウ。 が把技せる凡ての熱と力とザルト同時ニ此 き社會罪惡に對しては吾々 を汚漬してはならぬ、そこ|然ラバ其ノ自然ノ律理ト 時々しいものとなるのもそ 來るであろう。 |力である。|吾々は唯此崇高|ハ自減スカクシラ生物界最 人間願、求禮讃も社會の共適者生存ノ原理ニ背クモノ れからだ。 に法悦すべき秋もそれから 理化日ク何日ク何……質 ては足りるのだ。 なる眞理に向つて進めば凡高ノ授位ラ贏チ得タル人類ルヲ知ルデアロウ 業合理化日ク經濟組織ノ合 自然ノ律理ニ合フョウニ ヌガ要スルニ合理化トハ大類ハ何ガ故ゾ貪リニ身心ヲ|元セラレカクシテ土水ハ万|ニ茲ニアラザルベカラザル 名論ハ拜讀シナイカラ分ラへ二和平ノ容ナル增慢ノ人 後藤新平氏ノ政治偷理化ノ山川草木流水魚鳥自然ハ永 |二斯クノ如クアラコル方面||惨ヲ敢テシ日レン生存ヲ保見ョ、草木、土壌ノタメニ||均衡ノタメニ欠クベカラザ ニ解决シテシマウデアロウ|盾何タル暴悪デアロウ見ョ|ノタヌニ魚貝草木鳥獸氣水|會相ラ現出シ得ベシト信ズ 際問題ヲ處理ショ 。國家社會が愛に充てる|逆者トシラ永久ニ其ノ生命|酬コル 合理化所感 燦然として輝く柴光合致シ得ル能性ヲ欠キタル念ニ最善ノ努力ヲ盡セ然ヲ斯トナリ微粒トナツテ返レ 人の世の美しさを然トシテ何ト峻嚴ニ物語リ 相愛すべきスルコト 浄化|ヲ齎ラシタル過程ノ自然律|レハ實ニ自然ノ理法ニ無抵|自然ヲ法道越エラ奈落無邊 實腐爛セシメテ尚且ツョシラ|物育生ノ源ラナス、 ダーウキン進化論ノ不當ラーモノ文明ノ差名ハ自然へノ ヲ斷タレ太古ノ遣物ト 生物ノ存在ハ自然律ヘノ反 ニ支配サレ今尚支配サレッ|抗ナル態度ニアラズシテ何|際ノ邪道ニ突入ニスルモノ |数十万年前ノ岩層ノ間ニ恐|ソ福祉ニ惠マルベキ資格者|則デアル、 ツツアルコトデアロ 智ナリシガ数デアル、然ル ハロビ共營ノ約ヲ破ルモノ 二今日二於テハ其智其能益衡ニアリ流整ニア |共榮ノ約ヲ踏ンデ人類ノス||忽チ平衡ヲ失シテ天空ノ無||重ネテ 繁榮ノ基調原律、實三共存其何レノ一ヲ欠クモ運行 シウスルニ到り弱肉絶食ノ デ却而原始運動ノ暴慾ラ呈重要ナル格位ヲ保ツモノデ 二深ク愈々大トナルニ及シノ存在ハ至的存在二對シテ ベテノ外敵ニ對シラ勇敢銳限際へ微塵トナリテ壤減セ 只ココニ注意ヲ要徒ラニ優劣ヲ爭セ ハ此ノ大自然律三ヲ奪ハルルコトナカレ只專 ノ進化發達 ヲ得ズヤ哲人ハ叫ブ自然ニ歸レルコトニョリテ相關不離ノ シテスル從順ナル奉仕者ソレュ又對自然へノ原律デアリ法 八回ノ縁ハ智上然上二慢シ盲已レノミ ト又抗抵スル勿ルト合理化法縄ヲ切ラバ之レ自ラ宇宙 タル人間ノ運命ラ予約スルツテ以テ バ自然ニ報ユルベキモノニ 主タル太陽ノタメニ偽在ス |シラ彼ノ大宇宙太陽ハ他ノ 思ヲ廻ラシテ彼ノ大宇宙星 アル或ハ又地上ノスペララ 惑星ノタメニアリ惑星ハ盟 辰ノ運行ヲ見ヨ思ヒヲ迴ラ |循環轉回ノ轍ハ始終無盡ニ メニ而シテ人類ハ終ニ土還自カラ治ムルモノノ信、正 バスベテ悉ク人類性育ノタルモノデアル。 デアロウ、 自然ニ對此事業コソ吾々人類社會ノ 勝敗二心 リテ各々 **毛話六四** ノタノニ 如ク諸天躰ノ平衡和調ヲ脅 ヤカシツツ自躰ハ刻々二瓦 此ノ自然ノ法則ニ基ケル組 原則的觀念が共營ノ精神デ 一級運用處理交渉デアツテ其 へ他クスベテノモノノ和平 |巳ノタノニ恵福ラ齎シ己レ ルー組成分子ナリト考フル アル、自然界ノスベテハ自 高見ヲ叩ク。 ラ威ジ聊カ以テ大方諸賢ノ 一痕殘月山入處 垂柳風裏又清凉 飛螢默々悲深省 府歇鳴蛙滿池塘 恰モ天空ノ或彗星ノ 日ク合理化トハ實ニ 磐崎村 ル所以ヲ辨へズ スベテハ只己レ 素 朴 誠實勉强 也」へる印商 元 物 雑 貨 **当**獨居繁活 H 店主 **千葉門光**斯 于海外面 笹 佐酒米所 佐 野 藤 佐金太 尚 健之助 井 定觀 元 正 利 Æ 爾 H 岡今會村齋橋和五北宗梁矢港河 嵐利 泰貞公 大業所 富辰太欣 新勝 造猪郎吾清八已清造壽雄一郎 柳高河遠佐安野松山 篠川鈴熊小山吉野 原口木谷山野川坑 沼木田藤藤田崎永炭 沿 古邊

要業 忠信 仁金

會 -吉潔觀吾登敏海社

助戚戚

末太次武四

吉郎郎庸郎黨

何のため

0

副會長

鬼澤八百松 馬目子之吉 を計る事

悪宣傅ぞ?

は鈴木、

小名濱海岸

為一週間金子技師外局員數 設の調査を施行すると同事 名を常磐炭礦地方に派遣し られて居つたが本年よりい 東北帝大より近藤博士が こになり八月五日より向 ては從來さも研究を續け ~實地研究に着手する 自の教養、講演及演説會、 **圏体である事業としては各の四月十五日に行ふごとに** を抱ようせる權威ある一大 以上の(男女を問はず)者をた各炭坑の貯炭亂賣には殆一會の生活を保安し人類生存 り成る立國勞働自治會は左常磐炭坑の所長會は此程湯 入山採炭株式會社從業員よ 國勞働自治會 以て組織し現在一千數百人 綱領に賛成したる十五才本町に開催問題となってる

ら指導研究を行ふと。 行に加はり専問的立場か 田 圖書回覽、相互の共濟等に り其綱領左の如し して其成績見るべきものあ 忠誠以て皇室に奉し帝

後重役を再選重任と决定し 會社に譲渡することに滿場 電所の水利權は平電氣株式 總會は去月廿八日午前十時 報告損益計算書其他を承認 から同坑事務所に開會營業 尚當會社が有する大瀧發 四、産業の盛衰に留意し斯 二、各自の權利と自由さを成北安全概節 三、各自業務に精勵し福祉 國臣民たるの本分を盡す事 業の進展に貢献する事 の増進を圖る事 尊重する事 各自の智能で品性向上 等

石城郡磐崎村藤原三井炭坑|幹事長 飯場あり敷百の鮮人を使 佐藤、三宅の朝 會計主任 小松勝造 西原末吉 門馬己之松

役し成果を得つゝあるに何 者の仕業にや中傷的の宣傳 ビラを散布したる者あり為 入山炭坑 立國勞働自 海水沿無料休憩所 より

記三氏の激昴

一方なら

入山炭坑立國勞働自治會で

表彰せらる

署管內消防檢閱

0

覽も出來る。磐城軌道會社 設けた公休日には港内の遊三等 水浴無料休憩所を小名濱に は會員及家族慰安のため海 は四割引 等

なく

のであります

鎮滅に盡さなければならぬ

地獄極樂この世にな一吾々消防本來の幾分は災害のである、之はたゝに自治

警察の補助機關であるが又よう護の機關とふ漫然たる

考へばかり

でなく亦實に其

注意を笑つて怪我できを忘れてはならぬと思ふを率へ之を導き所謂心火

電

指定場所

いぞ注意極樂我怪地

石

常磐炭坑長會 菊の湯バラック 消防組頭 田

小名屋バラツク

吾々の

使命

んと解れず炭坑の年中行事の幸福を推持する上に於て「今を占むるものは不用意よ である山神祭は今後櫻花期 决定した。 神祭は四月十五日 幾多の團体ありと雖嚴格な せなければなりません世間 災害を排除し救濟しよう護 居る團体であります故に社あつて愛家愛郷となるでは 財産の保護を双肩に荷ふて る制度に拘束せらるゝ軍隊 々消防組員は人類の生命

ため小名濱海岸に無料脱衣を維持し義俠に富み殉難を 入山炭坑では従業員慰安の 無料脫衣場 て亂れさる態度の規律訓練 を除くの外政で制裁なくし事措養癒し或は野心家は自

み徒らに上司の措置を非難

し亀裂紛紅此れ事とするも

己の為にせんため徒黨を組

のあり為に堅實な組員の發

善良の組員を惡

「矯過激の思想者輕俳浮薄の

めなければならぬ尚輓近奇

地

中から安全標語を懸賞募集るものゝ要諦は機械器具のに堪へさるものあるではあ内郷村磐城炭坑では従業員ひます故に職を消防に奉す化に導く等其余弊實に痛慨 場を設けた。 中であつたが入賞者左の如 すが更に原動力とも謂ふべ 操縦も規律訓練の堪能も素 と断言する事が出來様と思達を狙害し より必要なる條件と思ひま は消防組以外に殆んとなし も辞せずして突進する團体

心と安全燈は明く持 ちな 小沼常五郎 き精神の鍛練及人格の陶冶し地方郷薫の先黨となりと 折與へられ

望とである。

た氏の抱負と希

の發展に努力しつうあ

赤津修一氏

し亦日露の役の勇士として君は立志傳中の人質業家と 植田消防組頭 △ 人材評論 坂本亀太郎 の形勢に て知らるでに各地事業を視聴造の改君は植田町の人材木商を以て知られる私山市造氏

する最近功を以て本縣知事、收粗服弊衣敢で意とせず職般の公共事業に奔走今後のとして活躍振りに敬意を表し仝町東方にある工場を買意を致し或は教育に其他百夙に命名あり現に消防組頭の最も適當なる業たるを察ら地方の開發殖産の興隆に 察して大に得る所あり土地 鑑み全所に材木商揮し顧客を本位に從業し傍に得る所あり土地に立つて克已精勵店員を指

当情害隊的の根本精神は則ち自く 凊 ります。 悟がなければならぬ故に災のであつて吾々消防は須ら 一面自治に立脚し自治を助 け自治の發達を期するの覺本然の殘努に直接影響する

は自愛に端を發するもので は共存共榮に在り共存共祭む次館であります。 治の精神に外ならぬものあ 念ふに自治の精神 命を全ふせられんことを望 同様の心事を以て消防の使 世の先覺者として教育者 學校用品販賣

意し斯かる災害の排除に努 あるまいか地方火災の大部 湯本町學校通

岩 玉 幸

村會議員

吾々消防は時弊の外に特立

りません。

りませんか大に慎まねばな

或

岡部

醸造の改善を計り自ら店頭

て知られ醸造業を營み専君は勿來町少壯實業家と

**眼金銀** 一萬年筆ラー煙時計附属 ジ品

電話四十三番

共同主義の金融機關 僅かの掛金でまごまる資金

記念新會員と

貴下の家庭にお奬めする 今秋の御大典の記念事業

マナゼ不景氣ですか? ----無盡の中で一番よい湯本式

やりが悪くなるからです。 な中央へ持ツてゆくからです。そして地方の金 れはアラユル金融機關が、地方の金を集めて、 ▼民衆の金は民衆へ

でも村でも個人でも、今秋の御盛典記念したい いひ役は、ゼェ湯本無盡につそめさして下さい。 らくして不景氣の風をおッ拂ひたい。不景氣の追 力の金は地方で融通したい、地方の金まはりを 何をお選びになりますか。 思ふことは國民の情であります。貴下の家庭で ▼絶好の記念事業

のであります。御大典記念にはゼヒ湯本無盡へ 本無盡は、貯蓄にも融通にも有利である上、中 集金の弊を打破して、地方の金融を潤澤にする 加入下さい。 ▼不景氣の追拂ひ策

福島縣石城郡湯本町二二五 ·營業案內呈上社員參上說明...

信用無盡株式會社 電話 四七

冤

小名濱湯本問

振替仙臺七九六四番

ておきたしていつて見ると

目はまだあきませんでし

わが

いてあればい、

がなてゐました。すると貞夫ちた。

お母さんは

かみのけはくろくつ

校がはじまります。

れません。あさつてから學

こえましたので私はたまげ

かねて

るました

らなん

たか オギャアしとなくこるがき

(四) あさがほも大きくなりまし うちのにはのあきさくらも 湯本校 二男佐藤八二郎 うれしくてとてもねむら ませんでした。 た。そのばんはうれ 新校しやの

木がいきいきとなつてきま つてゐるのでおにはのうゑ した。まいあさにいさんと 朝からはなびがいくつもあ がりました。今日はたんご トントツントントーンと今 道

のおせつくですのに雨がシ

私はあさがほのて

たうる

つてます。 をふかすけむりがモヤとた おだいところではおかしは 道を走る自ごう れしくてぎうしても ました。その夜はあまりう れませんでした。 昨日の

までゆくころは足だの人 おうちできれいにあらつて す。坂をのぼつて門の近く ないでおばさんのかさには でかつかりしました。雨に そのとちゆう他のおばさん ぬれて門をかけ出しました はかけをもつてなかつたの 昨日學校からかへる時ひど く雨がふり出しました。僕 湯本校三男 宮本義雄 父さんもお母さんも大變心 見る度に其事を思ひ出しま 夫ちやンの目の上のキヅを 時には家中喜びました。貞 でやつと安心しました。お 週間位でなほるといつたの

いきました。たうえは

おこめをそまつにはできま

ほきくなつてお父さんの位

湯本校二女

はえさ子とつけました。私るくと黑いざろとまじつて へんてこな色になります。 いう道を作るといつてれる します。赤いねば土のつい で家へかへりました。 さんにおれいをのべて急い の近所まできました。おば せつにいひましたので僕は ひじやうに喜びました。そ いつて行きなさいしとしん しておばさんと一しよに家 こゑにおざろいてねいちや きなこゑで呼ぶお母さんの 雨上りのある朝の事急に大 んど私といそいで行つて見 湯本校四男女鈴木ャエ子

私が十の時でした私と姉さや見てゐられないようなも んが二階でおはじきをやつ 湯本校四女 千葉俊子 思 C のばかりちらばつてゐまし うさぎの手や足やゐぶくろ た。血だらまつかになった

ぼくははね上つてよろこびてうお母さんはしつかりゃ ひしました。一昨日大きな のをかつていただきました らフットボールがほしくな りました。ぼくはその時か つてお父さんに『ドッチボ 人山の小學校にれん合うん ールの選手になるからどう 湯本校三男女 戶來 一とれねが ボー うとしましたがとまらない かは知りません。血はどん した。それがなぜなつたの ときづは大へん深くありま 母さンは 「子ばかりならい のでべつのだつしめんです 夫ちやんの左の目の上をお ふきました。かはりのをあ いつて見ると近所の人が貞 ました。おったのだからたしかはしこ幕はとじられた。 へが親が二匹。子が七匹。 い犬だと思ふよ」とおとな りたかつたと思ひました。 いきをついた私はそンない うさぎのはこをのぞき深い やうにひどい目に合せてや たづらをした大にうさぎの いことをしたネーさいて

それからさつそくお父さん 手ねぐひでしばりました。 がだいて入山のびやうねん 毎年僕の家の、 湯本校四男 うちの つばめ 鈴木節長 のきの所に

へつれていきました私も姉

ざつてやつてきませン。ど

ないのだらうと思ひます。 大切な一番大きいすが は知つてます。それは一番成果を收めた事は前川團長れ中 うしたのだらうと家中の人 バメはうらやましがつてこ にとられてしまつたのでッ

らしくて仕方がないのです。あの活躍振りに對しては それをおもふさい下がにく 又うちのツバメは去年みな二、眞の努力!人知らぬ苦 てつくッたらうと考へます がないのでよその家へいつ〇どれ見ても咲き劣り つかれて死ンだのではない物かい動いて居るではなか かとも思ひますがたしかす 時つばさか かよわき少女の男子に なし梅の花 其角 勝る

まく

「これは何子定のプログラム(省署)に居とは全然其然趣きを異 では去る八日午後六時よりを發したかつた。活動や芝既報の通り湯本女子青年團騒さあの不見織さには怒聲 湯本町女子青年團 三日地大地長の一だうであったらう。あの一 三、彼の人々の血涙溢る 心から敬意を表する め心理は

> 平和削節 **製造販賣元**

はないが九ひきたべてしま「百頗る盛會裡に午後十時半」があるだらうか。今少し音 ひきだらねこだつてぞうさ奏會が行はれた聽衆一干數四。 當日の收支决算左の如し らる 音樂に對して眞 らうか。 本氣の態度と聽衆のそ 演奏者の死に物狂へ? 、修養がほしいと思ふ 對する趣味!賞翫し得 居る事に氣がつ

一金貳百八拾圓余 金貳百圓 會員券 千枚賣上

> なさ れき

會塲裝飾のテープが切けなくて涙がこぼれる

を對照して見たい。

支出 一金貳百八拾圓余 金貳拾圓余雜收入 當日諸費 其の

算い心に謝意を表して

昔忘れぬ………

たら入山炭坑の松永さ

ピアノ購入費中へ 湯本尋高校 青訓講習會 措く

忠一儀葬儀の際は 松五位勳五等吉田

類販賣

四

豐

田丸屋商店 候謹んで御禮申上遠路御會葬被成下 候 昭和三年八月四 日

田

子

外 親戚一 右城郡磐崎村 一正 同治

鈴木道

太郎

湯本驛前

磐城屋號

の理解 Ø 燈籠 各種 利 馬目石材

か

長谷川兼 雨傘印

湯本町御幸町

萬漆物 各種提灯製造

招待員配儀

n

居たのを熱心に直して

仁がある。感心など仰

芳賀提灯店 湯本町石畑

吉田

電浴五 

111